

平成 23 年度パブリックコメントの実施状況

資料・1

案件名：垂水高校存続に向けた振興・支援策について（骨子案）

実施日：平成 23 年 6 月 6 日（月）～7 月 5 日（火） 30 日間

1. 提出数

郵便	名
FAX	名
e-mail	4 名
直接持参等	3 名

2. 寄せられたご意見と垂水市の考え方

■計画全体に関する意見等と市の考え方

No.	意見等の概要	市の考え方（企画課回答）
1	振興・支援策の案として、垂水高校に「よさこいソーラン」の踊りチームをつくり、未来を担う想像力豊かな人材づくりを目指し、中高間の連携及び学校と地域の連携を図る。	「未来を担う人材づくり」「垂水市の地域振興」「垂水高校と関係団体の連携」に対する施策形成に活用していく。
2-1	2p 2. 生徒及び保護者の意識調査 ①アンケート調査概要 垂水高校以外の高校生にアンケートを実施すべきでなかったか。	データサンプル数は十分確保できている。また、個人情報保護の観点と郵送等に要する経費が発生することも調査対象としなかった理由である。
2-2	2p 1. 魅力ある高校づくりの目的 「魅力ある」が誰に対してのものなのか	「学校のイメージアップ」の成果イメージに明記されている。
4-1	鹿屋市内の高校の募集定員を減らすこと	大隅地区全体の課題であるため「垂水高校と関係団体の連携」で取り組む。
4-2	学校の行事があっても一般の方々の姿がない。もっとPRを行うべき。	「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。
4-3	少しでも泳げるようになりたいという人に、ボランティアで教えてあげてもよい。	「垂水高校と関係団体の連携」に対する施策形成に活用した。
5-1	地理的、人的要因による垂水高校への進学希望者の減少は否定できない事実であり、その反省と認識にのっとった振興支援策が必要である。	同様の考え方のもとで取り組みを行っている。なお、別に調査研究報告書を作成している。

5-2	<p>地域に必要な学校ならば、その地域で生活の糧を得ている人たちの実践、行政職員、地元企業人の個人的な努力が不可欠である。</p>	<p>「垂水市の地域振興」に対する施策形成に活用した。</p>
5-3	<p>中学校での進路指導も子供たちに及ぼす影響は大きい。市教委による先生方への働きかけも必要。</p>	<p>「進学・就職の充実」に対する施策形成に活用した。 ※キャリア教育・進路相談</p>
6-1	<p>保護者の情報収集力欠如が伺える。保護者は高校の選択決定がいかに重要であるかを認識し、子の将来を見据えた上で、子に対して高校選択の助言をすべきである。</p>	<p>「未来を担う人材づくり」に対する施策形成に活用した。 ※施策アイデアの指針として「PTA活動・家庭教育の充実」を追加した。</p>
7-1	<p>◎県との関係で実現していくこと（垂水高校など小規模校の存続保証のための県の施策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の統合廃止問題を行財政改革と切り離す。 ・教育環境の整備-25人学級の実現 ・学校格差の解消など入試制度の見直しを検討していく。生徒たちの学びたいという要求に応えられているのか。高校教育を根本から問い直していく。 ・高校の問題は「地域づくり」との観点で検討し直す。 <p>以上を県に要請し、提言していく。</p>	<p>振興支援計画書内に本市の地域づくりの観点、地域間格差の観点、小規模校の存続などを明記する。</p> <p>なお、「垂水高と関係団体の連携」に対する政策形成にも活用した。</p>
7-2	<p>◎市民との関係での課題（地域づくりと学校づくりの課題を明確にする）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を守ること自体が地域づくりの課題という認識。 ・人材育成の観点からも高校の位置づけとまちづくり政策を有機的につなげていく取り組みを進めていく必要がある。地域の課題に高校教育がどう応えていくか問われている。地域を支える主権者として成長することを高校教育は保障しなければならない。 ・高校生や中学生の意見聴取 	<p>振興支援計画書で、垂水高校の在り方として、「地域に貢献し、地域に支えられる学校」とした。</p>

■5つの柱各論に関する意見等と市の考え方

No.	意見等の概要	市の考え方（企画課回答）
2-3	2p 1. 魅力ある高校づくりの目的 垂水高校振興対策協議会の構成員はこれまでどおりか。見直しは。 (4p 5. の目標②と関連付けて)	「垂水高校と関係団体の連携」に対する施策形成に活用した。 ※振興対策協議会の活性化
2-4	3p ③課題分野 c)就職に有利な施策 多様な資格取得のための講座を設ける。また、学校のキャリア教育に加え、学習塾等を活用した取組を進める。	「進学・就職の充実」に対する施策形成に活用した。 ※就職・進学希望者の目標実現
2-5	3p ③課題分野 d)通学の便利向上 市外から入学者を増やさなければならぬことから、市外通学も利便性が上がるような施策が必要である。	「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。 ※安心して通わせられる学校づくり
2-6	3p ③課題分野 h)子供の意思 部活動充実とともに学習の補習授業や中学生に関心のある人気のある資格が取れるなど更に充実した高校生活が垂水高校でできるということを学校の選択肢の一つになるよう取り組む。	「学校のイメージアップ」「進学就職の充実」「未来を担う人材づくり」に対する政策形成に活用した。
2-7	3p ③課題分野 i)地元の良さ 資格取得のための学習や高校で対応できない様なところを商工会や学習塾を生かした施策の展開。	「進学・就職の充実」に対する施策形成に活用した。 ※就職・進学希望者の目標実現
2-8	3p ③課題分野 j)経済的負担の軽減 市外からの通学者への補助支援策の実施。バイク通学も毎月の交通教室を義務付けた上で実施する。	「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。 ※安心して通わせられる学校づくり
2-9	4p 1 イメージアップ（内容） 普通科に特進コースを設ける。様々な資格取得を進めていく。	「学校のイメージアップ」「進学・就職の充実」に対する施策形成に活用した。 ※就職・進学希望者の目標実現
2-10	4p 1 イメージアップ（成果） 「小規模校」の機能を生かした学校づくりは必要ない。子どもと保護者にとってより一層魅力的であり夢を実現へと導いてくれる学校づくりを学校と市が進めている。通わせたい高校・住みたいまちまでつながるイメージではどうか。	将来、県内の生徒数が減少するという現実を踏まえ地域振興を視点とした高校の在り方が問われており、様々な視点から検証した結果を調査研究報告書にまとめている。これらをもとに振興支援計画書において振興支援の方向性を示している。

2-11	4p 1 イメージアップ（目標） ①県内でも人気のある学校づくり 他校にない思い切った内容が必要	「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。
2-12	4p 1 イメージアップ（目標） ⑤生活デザイン科 他この学科を県内一位にする支援を望む。下宿支援や寮の設置により県内から進学してくる位になって欲しい。	「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。
2-13	5p 3 人材づくり（成果） 地域を限定せず、子供の夢であれば世界で活躍できるよう心意気を表して欲しい。	「未来を担う人材づくり」の成果イメージを修正した。 ※「日本（鹿児島、垂水）」を「日本や世界」とした
2-14	5p 4 地域振興（目標） ②垂水市への定住支援 在学中及び卒業後3年度の家賃無料等、思い切った支援が必要。	「垂水市の地域振興」に対する施策形成に活用した。
2-15	5p 5 関係団体連携（内容） 他市民視点が大事。行政や関係団体は当然として、中学生・高校生・一般社会人・主婦層や代表産業界からなども意識して取り入れてほしい。	「垂水高校と関係団体の連携」に対する施策形成に活用した。 ※振興対策協議会の活性化
2-16	5p 5 関係団体連携（目標） ②垂水高校振興対策協議会 高校まで指導者が同じであれば成果も大きくなるのではないか。小中高を一貫した指導陣にするなど部活は市で支援し、高校は学力の面に力を入れるなど思い切った取り組みができないか。	「垂水高校と関係団体の連携」に対する施策形成に活用した。 →「学校のイメージアップ・活力ある学校づくり」の施策のアイデアにおいて、「生徒会・部活動等の活動充実」を追加した。
3-1	4p 1 学校のイメージアップ 垂水小学校と隣接していることから小学生に見られていると自覚させるべき。（小学生との交流の場もない）	「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。 ※安心して通わせられる学校づくり →対象に小学生を追加
3-2	4p 3 未来を担う人材づくり 垂水に対する郷土愛を育むためには史跡めぐりなどでなく、郷土史について学ぶべき。	「未来を担う人材づくり」に対する成果イメージを修正し、また、施策形成に活用した。 ※「生徒は垂水の歴史、現状を知り、垂水に愛着を持っている」を追加

3-3	<p>5p 2 進学・就職の充実 4 垂水市の地域振興（目標）</p> <p>地元企業による雇用支援策として、専門技術の学校が導入している委託制度を検討する。また、長期休暇中や授業本編で長期、中期の職場体験型の就労あっせん。（高校のころからある程度の社会性を身につける方が学生、事業所ともに利徳にかなう。）</p>	<p>「進学・就職の充実」「垂水市の地域振興」に対する施策形成に活用した。</p> <p>※キャリア教育の推進、地元企業対策</p>
6-2	<p>4p 1 学校のイメージアップ</p> <p>「FMたるみず」にて垂水高校を紹介する番組を制作しPRを図る。</p>	<p>「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。</p> <p>※県内でも人気のある学校づくり</p>
6-3	<p>4p 1 学校のイメージアップ</p> <p>垂水高校に通学可能な市外の地域を対象に学校説明会を開くとともにオープンスクールを開催し囲い込みを図る。</p>	<p>「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。</p> <p>※県内でも人気のある学校づくり</p>
6-4	<p>4p 1 学校のイメージアップ</p> <p>同窓生を中心として、受験対象者の掘り起こしと勧誘を行う。</p>	<p>「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。</p> <p>※県内でも人気のある学校づくり</p>
6-5	<p>4p 2 進学・就職の充実</p> <p>高校学業成績の底上げを図るため、成績不良者への課外授業を行う。この場合、垂水中央中との連携を図る。</p>	<p>「進学・就職の充実」に対する施策形成に活用した。</p> <p>※就職、進学希望者の目標実現</p>
6-6	<p>4p 2 進学・就職の充実</p> <p>垂水中央中学生徒を対象に垂水高校受験対策を施す。</p>	<p>「学校のイメージアップ」に対する施策形成に活用した。</p> <p>※県内でも人気のある学校づくり</p>
6-7	<p>5p 4 垂水市の地域振興</p> <p>地場企業には垂水高校雇用枠を設けてもらい、補助金を交付する。</p>	<p>「進学・就職の充実」「垂水市の地域振興」に対する施策形成に活用した。</p> <p>※地元企業対策、雇用対策</p>
6-8	<p>5p 5 関係団体との連携</p> <p>垂水学校応援団との連携</p>	<p>「垂水市の地域振興」「垂水高校と関係団体の連携」に対する施策形成に活用した。</p> <p>※地域に信頼され期待される地域の学校の学校づくり</p>
6-9	<p>5p 5 関係団体との連携</p> <p>鹿屋高校／鹿屋女子高の普通科クラス減を目指す（各校の学力質の維持を名目とする）</p>	<p>大隅地区全体の課題であるため「垂水高校と関係団体の連携」で取り組む。</p> <p>なお、調査研究報告書において、問題提起を行っている。</p>

新旧対照表

基本方針 課題の分野	新 5つの柱			
	説明・方針の内容	成果イメージ (目標の指針)	目 標	振興策
I 学校のイメージアップ ①学校のイメージ ④通学の利便 ⑤高校生活の充実	中学生の学校選択の第1位に上がっていたことから、垂水高校に対する総合的なイメージ改善を目指すもの。このため、垂水高校のよいところ（小規模校等）を生かしながら、イメージ低下を招いている点を改善していく。さらにこれらの取り組みなどを小・中学生やその保護者、地域住民に丁寧にPRし、学校のイメージアップを行っている。	①生徒一人一人を大切にできる「小規模校」としての機能を十分生かした学校づくりを進めている。 ②生徒は垂水高校生という自覚を持ち、充実した学校生活を送っている。 ③地域や保護者にとって、垂水高校は安心安全な学校として認識が進んでいる。 ④垂水中央中及び県内の中学生・保護者から、魅力ある学校として認識され、行きたい学校となっている。	[1] 県内でも人気のある学校づくり	■魅力ある垂水高校づくりの各振興策の実現による成果等や垂水高校の良いところ（少人数・コミュニケーション・学習環境・進路）を積極的にアピールしていく広報方法を強化する取り組み
			[2] 活力ある学校づくり	■元気のある各種校内活動を展開し、その活力が学校を、ひいては地域を活性化させる事業の取り組み
			[3] 地域貢献する学校づくり	■ボランティアや各種行事への参加及び地域資源をいかした活動により高校生の意識を高め、地域住民とふれあい、地域から信頼される活動の取り組み
			[4] 安心して通わせられる学校づくり	■通学・学習環境を安心安全なものとする取り組みや、小・中学生や地域住民からより信頼される高校生の生活態度に努める取り組み
			[5] 生活デザイン科の特色を生かした学校づくり	■県内で唯一の生活デザイン科を最大限に生かした事業を展開し、各方面からその成果が認められる取り組み
II 進学・就職の充実 ②進学に有利 ③就職に有利	生徒からは、自分の将来目標の実現のため、進学や就職に対して大きなニーズがあることから、生徒の進路決定に対して、できるだけ支援が行えるよう取り組みを進めていくものである。	①生徒一人一人の目標実現のため、適切な進路指導が行われている。 ②地元企業を中心とした就職枠が確保されている。	[1] 就職、進学希望者の目標実現	■生徒増及び教育水準の向上を目指した体制やカリキュラムを構築する取り組み ■就職・進学希望者の目標実現のため、地域や関係団体等と連携してさらに効果のある体制を構築し、よりよい実績を目指す取り組み
			[2] キャリア教育の推進	■社会の変化に対応し、しっかりとした勤労観、職業観を身に付け、様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していける高校生を育成する取り組み
			[3] 地元企業対策（就職枠・雇用支援）	■地元企業との交流を図り、期待される学校・高校生像を探求し、より良い実績を目指す取り組み

旧 5つの柱			
説明・方針の内容	成果イメージ (目標の指針)	目 標	振興策
中学生の学校選択の第1位に上がっていたことから、垂水高校に対する総合的なイメージ改善を目指すもの。このため、垂水高校のよいところ（小規模校等）を生かしながら、イメージ低下を招いている点を改善していく。さらにこれらの取り組みなどを中学生やその保護者、地域住民に丁寧にPRし、学校のイメージアップを行っている。	生徒一人一人を大切にできる「小規模校」としての機能を十分生かした学校づくりを進めている。 生徒は垂水高校生という自覚を持ち、充実した学校生活を送っている。 地域や保護者にとって、垂水高校は安心安全な学校として認識が進んでいる。 垂水中央中生徒から、魅力ある学校として認識され、行きたい学校となっている。	[1] 県内でも人気のある学校づくり	※設定なし
		[2] 活力ある学校づくり	※設定なし
		[3] 地域貢献する学校づくり	※設定なし
		[4] 安心して通わせられる学校づくり	※設定なし
		[5] 生活デザイン科の特色を生かした学校づくり	※設定なし
生徒からは、自分の将来目標の実現のため、進学や就職に対して大きなニーズがあることから、生徒の進路決定に対して、できるだけ支援が行えるよう取り組みを進めていくものである。	生徒一人一人が自己の目標実現のため、適切な進路指導が行われている。 地元企業を中心とした就職枠が確保されている。	[1] 就職、進学希望者の目標実現	※設定なし
		[2] キャリア教育の推進	※設定なし
		[3] 地元企業対策（就職枠・雇用支援）	※設定なし

新旧対照表

基本方針		新 5つの柱			
Ⅲ 未来を担う人材づくり	垂水高校の校訓「和・学・行」に基づく人材育成の実践及び市教育振興計画の基本目標「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」の実現に向けた取り組みを進めるものである。	①生徒は日本や世界の将来を背負っていくことを自覚している。 ②生徒一人一人の能力が十分発揮されている。 ③生徒は垂水の歴史、現状を知り、垂水に愛着を持っている。	[1] 将来設計ができている生徒の育成	■社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を持ち、明確な目的意識を持って日々の学業生活を送る高校生を育成する取り組み	
			[2] 地元を知り、愛する生徒の育成	■郷土を知り愛する心を持ち、地元とのふれあいを通じて社会の一員として自立したたくましい人づくりと、感謝と感動を育む取り組み	
			[3] 生徒一人一人が輝ける活動の推進	■生徒が自分たちの学校に魅力を感じ（所属感、自己有用感）、自信と誇りをもって高校生活を送ることができるような取り組み	
⑥友達、先輩とのふれあい ⑧子供の意思					
Ⅳ 垂水市の地域振興	高校がなくなることで本市の地域振興、経済を含め多大な影響があることから、子育て支援や学業支援策による定住対策と企業誘致や雇用対策などに取り組み、本市の発展を目指していくものである。	①地域と連携した活動が行われ、垂水高校が地域になくてもならない学校として認識され、地域振興が進んでいる。	[1] 地域に信頼され期待される地域の中の学校づくり	■地域に開かれ信頼される学校を実現するために保護者や地域住民の意見や要望を的確に反映させ、情報提供を行いより家庭や地域社会と連携協力していく。それと同時に、保護者や地域住民が学校に積極的に協力していく取り組み。	
			[2] 垂水市への定住促進（子育て支援）	■より安心して垂水高校に通わせることができるように、経済的負担の軽減や進学・就職活動支援等を行うことにより高校生活の安定と垂水市の定住につながる取り組み。	
			[3] 企業誘致及び雇用対策	■地元企業に関心を持ち、自分がやりたい職業を発見できるよう、地元の職業紹介をする機会づくりを推進し、また、地元企業、事業所をはじめハローワークなどの各関係機関との連携強化に努める取り組み ■雇用創出や定住化につながる企業誘致の推進と地元事業所振興及び創業支援の取り組み	
⑨地元の良さを生かす ⑩経済的負担の軽減					
Ⅴ 垂水高校と関係団体の連携	これらの取り組みは、垂水高校だけでなく関係団体と同じ目標に向かい連携しながら取り組んでいく必要があることから、垂水市及び大隅地域振興の視点も踏まえて、効果的な事業推進が行えるよう取り組んでいく。	①高校と行政、地域、小中学校、同窓会、PTA、産業界などとの連携が進み、振興対策で実施する事業が円滑に進んでいる。	[1] 県教委、大隅地域との連携促進	■県教委の積極的な働きかけにより、高校生が自分の学校を愛し誇りを持ち、自分の高校に通ってよかったと思えるようになる取り組み ■県教委と大隅地域の関係団体が定期的に意見交換できる場を設け協議し、高校の振興につながる取り組み ■大隅地域の高校がネットワークを形成し協力し合うことによりお互いが高めあうことができる取り組み	
			[2] 垂水高校振興対策協議会の活性化	■垂水高校振興対策協議会参加の団体等が垂水高校の振興につながる施策や課題解決に積極的に取り組み、効果ある実績を残していく取り組み	
			[3] 関係団体等による活動支援	■PTAや同窓会及び市内関係団体等が自らの役割を認識し積極的な支援活動を行い、そのことが垂水高校及び垂水市の活性化につながっていく取り組み	
⑦保護者の理解					

旧 5つの柱			
垂水高校の校訓「和・学・行」に基づく人材育成の実践及び市教育振興計画の基本目標「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」の実現に向けた取り組みを進めるものである。	生徒は日本（鹿児島、垂水）の将来を背負っていくことを自覚している。 生徒一人一人の能力が十分発揮されている。	[1] 将来設計ができている生徒の育成	※設定なし
		[2] 地元を知り、愛する生徒の育成	※設定なし
		[3] 生徒一人一人が輝ける活動の推進	※設定なし
高校がなくなることで本市の地域振興、経済を含め多大な影響があることから、子育て支援や学業支援策による定住対策と企業誘致や雇用対策などに取り組み、本市の発展を目指していくものである。	地域と連携した活動が行われ、垂水高校が地域になくてもならない学校として認識され、地域振興が進んでいる。 生徒は垂水の歴史、現状を知り、垂水に愛着を持っている。	[1] 地域に信頼され期待される地域の中の学校づくり	※設定なし
		[2] 垂水市への定住促進（子育て支援）	※設定なし
		[3] 企業誘致及び雇用対策	※設定なし
これらの取り組みは、垂水高校だけでなく関係団体と同じ目標に向かい連携しながら取り組んでいく必要があることから、垂水市及び大隅地域振興の視点も踏まえて、効果的な事業推進が行えるよう取り組んでいく。	高校と行政、地域、小中学校、同窓会、PTA、産業界などとの連携が進み、振興対策で実施する事業が円滑に進んでいる。	[1] 県教委、大隅地域との連携促進	※設定なし
		[2] 垂水高校振興対策協議会の活性化	※設定なし
		[3] 関係団体等による活動支援	※設定なし